

ブロイラー産肉能力に関する試験 [第 50 報]

竹原成海・住友弘明・小浦孝修・森奈津・松長辰司・富久章子

要 約

ブロイラーの改良と農家経営の指針を得るため、県内で飼育されている主要銘柄であるチャンキーについて、令和 6 年 9 月 17 日から令和 6 年 10 月 29 日 (42 日間) まで産肉能力試験を実施した。

6 週齢時の雌雄平均成績については、育成率が 100.0%，出荷時体重が 3,163g，飼料要求率が 1.37 であった。また、プロダクションスコアは 552.0 であった。一方、と体成績では、と体歩留が 93.6% と高く、むね肉+もも肉+ささみ歩留は、と体重に対して 47.1% であった。

ブロイラーは、品種改良が進み、能力が毎年向上していることから、今後も継続した試験が必要である。

目 的

当課では、ブロイラー改良の動向を把握するため、昭和 52 年からブロイラーの主要銘柄について産肉能力試験を実施している¹⁾。本試験では、県内に流通している市販 1 銘柄を用い、その発育性、飼料摂取量、飼料要求率及びと体成績について調査した。

材料および方法

1) 試験期間

令和 6 年 9 月 17 日～令和 6 年 10 月 29 日 (42 日間)

2) 試験区分

供試鶏種及び羽数を表 1 に示した。雌雄それぞれ 50 羽供試し、雌雄別飼とした。

表 1 試験区分 (羽)

銘柄	♂	♀	計
チャンキー	50	50	100

3) 供試飼料

供試飼料の種類及び成分を表 2 に示した。

試験期間を通して市販のブロイラー用飼料を用い、不断給餌とした。

4) 飼養管理

試験鶏舎は平飼開放型鶏舎で 1 室 4.32 平方メートルを使用し、各室 50 羽 (38 羽/3.3m²) を収容した。育雛、育成とも同一場所で飼育した。温度管理は、当課の慣行に従いパンケーキ型ガスブルーダーにより給温し、2 週齢時に廃した。飲水はニップルドリンカーを使用し、不断給水とした。

5) 衛生管理

ワクチネーションは、孵化場にて P O X, M D を接種、初生時に I B, 2 週齢時に N D, 17 日齢に I B D, 3 週齢時に I L T, 4 週齢時に N D とした。

表2 供試飼料

期 間	種 類	保 証 成 分 (%)				ME (kcal/kg)
		C P	粗脂肪	粗繊維	粗灰分	
0-3 週齢時	ブロイラー肥育前期用	20.0	4.0	5.0	8.0	3,150
3-5 週齢時	ブロイラー肥育後期用	18.5	4.5	5.0	8.0	3,230
5-6 週齢時	ブロイラー休 薬 用	19.0	6.0	5.0	8.0	3,300

C P : 粗タンパク質 ME : 代謝エネルギー

6) 調査項目

調査項目は次のとおりである。

- (1) 鶏舎環境
- (2) 育成率
- (3) 発育体重
- (4) 飼料摂取量
- (5) 飼料要求率
- (6) と体成績

(2) 育成率

育成率は、雄 100.0%、雌 100.0%であった(表 3)。

表3 育成率 (%)

♂	♀	平均
100.0	100.0	100.0

結果および考察

(1) 鶏舎環境

鶏舎気象について、各週齢における平均値は図 1 のとおりであった。

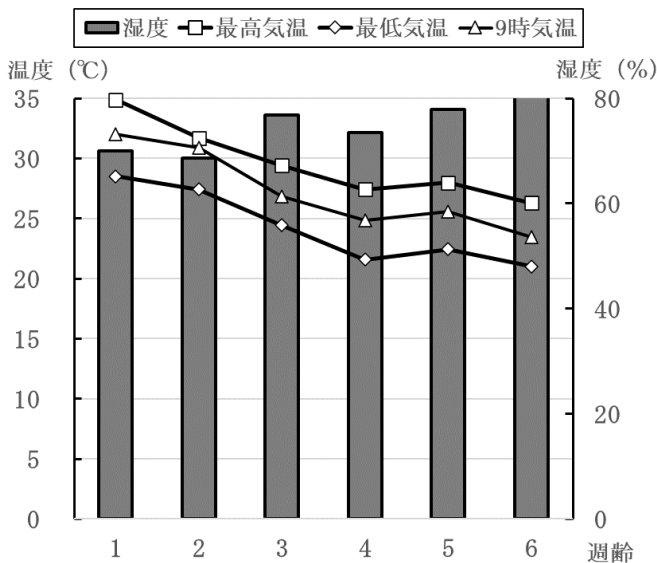


図1 鶏舎気象

(3) 発育体重

発育体重を表 4 に示した。

6 週齢の 1 羽あたりの発育体重は、雄 3,467g、雌 2,858g であった。

表4 週齢別発育体重 (g)

性 週齢	0	1	3	5	6
♂	41.7	166	1021	2,684	3,467
♀	41.2	135	869	2,168	2,858
平均	41.5	151	945	2,426	3,163

(4) 飼料摂取量

飼料摂取量を表 5 及び表 6 に示した。

6 週齢までの 1 羽あたりの総摂取量は、雄 4,623.5g、雌 3,894.1g であった。

表5 飼料摂取量

(g/羽/日, 総摂取量: g/羽)

性	週齢	前期用			後期用		休薬用	総摂取量
		1	2	3	4	5	6	
♂		24.0	56.8	93.8	135.5	166.9	183.5	4,623.5
♀		22.5	46.4	81.0	115.8	132.1	158.5	3,894.1
平均		23.3	51.6	87.4	125.7	149.5	171.0	4,258.8

表6 種類別飼料摂取量

(g/羽)

性	期間	前期用	後期用	休薬用	計
		0-3 週齢	4-5 週齢	6 週齢	
♂		1222.2	2,116.8	1,284.5	4,623.5
♀		1049.3	1,735.3	1,109.5	3,894.1
平均		1135.8	1,926.1	1,197.0	4,258.8

(5) 飼料要求率

飼料要求率を表7に示した。

6週齢時の飼料要求率は、雄1.35、雌1.38であった。

表7 飼料要求率

性	週齢	3	5	6
♂		1.25	1.26	1.35
♀		1.27	1.31	1.38
平均		1.26	1.29	1.37

(6) と体成績

と体成績を表8に示した。

と体調査は、6週齢時に食鳥取引規格に基づき実施した。調査に供試する個体は、各区の平均体重に近い雄及び雌を、それぞれ3羽ずつとした。

と体歩留は、平均93.6%であった。むね肉、もも肉及びささみの合計である正肉歩留は、と体重に対して47.1%であった。また、腹腔内脂肪率は1.9%であった。

(7) 経済性

経済性を表9に示した。

6週齢における1羽あたりの所得は雄209.3円、雌148.9円となり、雌雄平均は179.1円であった。これらを生体重1kgあたりの所得に換算すると、平均は56.3円となった。

ブロイラーの能力は毎年向上しており、今後も調査を継続し、ブロイラーの能力に適した飼養管理技術の改善を図る必要がある。

文 献

- 1) 竹原成海・富久章子ら. 徳島畜研報. 24. 23-26. 2025

表8 と体成績 (6週齢時)

(体重: g, その他: %)

項目 性	生体重	と体重	と体 歩留	正肉歩留				骨付き 手羽	可食内臓割合				腹腔内 脂肪
				むね	もも	ささみ	計		心臓	筋胃	肝臓	計	
♂	3,547	3,313	93.4	23.0	20.3	3.9	47.2	7.9	0.5	1.1	2.2	3.8	1.4
♀	2,840	2,660	93.7	22.9	19.5	4.6	47.0	8.4	0.4	1.3	2.0	3.7	2.3
平均	3,194	2,987	93.6	23.0	19.9	4.3	47.1	8.2	0.5	1.2	2.1	3.8	1.9

表9 経済性試算表

(P S以外: 円)

項目 性	収入	支 出				P S	所得 (収支)	
		素ヒナ代	飼料費	光熱費等	計		1羽あたり	1kgあたり
♂	520.1	80	196.8	34	310.8	611.6	209.3	60.4
♀	428.7	80	165.8	34	279.8	492.3	148.9	52.1
平均	474.4	80	181.3	34	295.3	552.0	179.1	56.3

- 注 (1) 収入: 1羽あたり平均体重 (kg) × 150 円
(2) 飼料費: 前期用 49 円/kg, 後期用 41 円/kg, 休薬用 39 円/kg で試算
(3) 光熱費等内訳: 衛生費 16 円/羽, 光熱費その他等 18 円/羽で試算
(4) P S: プロダクションスコア = {(出荷時体重 × 育成率) ÷ (飼料要求率 × 出荷日数)} × 100
(5) 所得: 収入 - 支出